

加速される世界のSARSワクチン探し

研究者によると、特筆すべき進展はあったが本年はワクチンの準備は間に合わない

2003/11/5/ WHO (原文プレスリリースは、<http://www.who.int/mediacentre/releases/2003/pr83/en/>)

15カ国から集まった50人以上の第一線のSARS研究者らは、安全で有効なワクチンが、現在のSARSのコントロール策の重要な補完策となるとの結論に達した。しかしながら、ほとんどの専門家達は、今年の年末にもSARSの流行が再発生したとしても、ワクチンは利用することができないであろうと言う点でも合意した。

WHO(世界保健機関)のSARSワクチンに関する研究および開発委員会(Consultation on SARS Vaccine Research and Development)は、この分野の研究の進展状況を再評価し、SARSワクチンの開発と評価を加速する方法を特定した。

「安全で有効なヒトへのSARSワクチンの開発努力と、国際的研究協力のレベルには非常に心強いものがあります。しかし短期的には、我々は実際に利用できる感染制御対策、つまりサーベイランス、早期診断、院内感染対策、接触者追跡調査、国際報告といったものによって、もしSARSの再発生が起こった場合に対応できる準備をしていなければなりません。また、ワクチンをいつ、どのようにして、現在の感染対策に加えることができるのかについては、調査を続けなければなりません」と、WHO事務総長LEE Jong-wook博士は述べた。

2日に渡った会議で、SARSワクチンの開発と評価に関連する疫学的情報と、SARSコロナウイルスがどのようにしてヒトに病気を引き起こすのかについて何が分かっているかが再検討され、その最終的な提言が今週取りまとめられた。このグループはまた、将来のワクチンに含まれるウイルス株として最も適当なのはどれであるかを定めるために、SARSコロナウイルスの遺伝的な変異の起こり易さについても検討した。SARSワクチンの開発に関する議論は、類縁のコロナウイルスによって引き起こされる、動物の疾患に対するワクチンに関した非常に多くの利用可能な情報に基づき行われた。グループは最後に、最近行われた実験的動物ワクチンの研究成果の評価を行い、将来的にボランティアによるヒトへの臨床試験の開始に、この情報をどのように生かせるかに関して検討した。

不活化SARSワクチンの最初の臨床試験は、早ければ2004年1月には開始される可能性がある。しかしながら、いつワクチンが利用可能になるかについては明言することは難しい。SARSの再発生が起こったならば、この過程を加速させ、2年以内にワクチンが完成する結果となるかもしれない。もしSARSの大きな集団発生が無いなら、ワクチンは従来の開発段階に従って、4~5年の間に実用化させることはできないであろう。

Research)部門長のMarie-Paule Kieny博士は、「もし我々が、SARSワクチンを通常より迅速に開発するというのなら、科学研究、知的財産権、患者問題、(情報)アクセスの良さなど、多くの分野で同時に協力し続けなければなりません。我々の研究の方法を変えつつある、前例の無い高いレベルの国際協力には、非常に複雑なプロセスが関与しています。しかし、如何にワクチンの需要が緊急性のあるものであっても、安全性と品質には決して妥協を許してはなりません。しかしまた、SARSに対するワクチンを早期に開発できるほど、この疾患が再発生したときに、より十分な対策が取れることになるのは明らかです」と述べている。

グループはまた、科学的な議論に加え、特許権や知的財産権の問題とその保障が、SARSワクチンの迅速の妨げとなるよりむしろ、いかに支援になるか、そして一旦開発された場合には、先進国および発展途上国双方で確実に利用できるようにするについても検討した。

SARSワクチンの臨床評価と認可に関しては、特別規定を考慮することなども焦点となった。とりわけ、SARSワクチンをヒトにおける有効性のデータ無しに、認可しなければならない可能性について検討された。確かにSARSの場合、通常こういったデータを得るために行う、臨床有効性試験を施行することは、疾患の転帰が重症であることや、現在までのところその発生がまれであること、必要とされるワクチンの開発が緊急性を持つことなどから適当ではないと言えるかもしれない。

公的機関と製薬会社の代表らは、複数のSARSワクチン候補の開発と検定の進行状況を報告し、会議参加者らは全ウイルス粒子を用いた不活化ワクチンの開発と検定について特別に配慮して検討した。

研究の進捗状況を検討し、現在の高いレベルの国際協力を維持するために、WHOによる協議がさらに開催される予定である。

さらに詳細な情報は以下まで：
Chris Powell
Telephone: +41 (79) 217 3425
Email: +41 (22) 791 2888